（別紙4）　　平成　30　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2392000028		
法人名	医療法人　常念会		
事業所名	グループホームもみじ（ふじ）		
所在地	愛知県豊橋市大村町字山所77番地		
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2392000028-00&PrefCd=23&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成30年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

人とのつながりを大切にして地域とともに歩むグループホームを目指しています。
住み馴れた地域で認知症になっても安心して生活ができるように、明るく家庭的な雰囲気のなかで安心して穏やかに生活が送っていただけるような支援を行っています。
個別ケアや認知症予防にも取り組んでおり生活のなかで一人ひとりの生活の質の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域の方との交流については、老健と併設している利点を活かしながら行われているが、ホームでも独自に地域の方と交流する取り組みが行われている。地域の方の理解と協力を得ながら、地域の行事にホームからも参加する機会が得られている。今年度は、地域の方を中心に行われている支援活動にホーム管理者も参加、協力する取り組みが行われており、地域貢献にもつながっている。運営推進会議の際には、様々な分野の方の参加が得られており、ホームの現状を知ってもらいながら、出席者から出された意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。医療面に関する支援についても柔軟な支援が行われているが、ホームでは運営母体でもある医療機関の他にも複数の医療機関との連携が行われており、利用者一人ひとりの健康状態や身体状態に合わせた支援が行われてい

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所内に理念が掲示されており、いつでも確認ができるようにしてある。スタッフ会議の場などで事業所の方向性を位置づけるものとして、定期的に再確認をする機会を設けている。	ホームの基本理念を職員による支援の基本と考えてながら、管理者からも職員に日常的に意識してもらう働きかけが行われている。また、年度の目標をつくる取り組みが行われており、理念の実践につながる取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入しており地域の行事や事業所の行事などで交流する機会を設けている。今年度より始まった地域交流活動にも積極的に参加して日常的に交流する機会を設けている。	併設の老健等とも連携しながら、地域の方との交流が行われているが、ホームでもボランティアの方の受け入れが行われている。また、地域の方による新たな支援活動にホームからも参加、協力する取り組みが行われており、地域貢献にもつながっている。	地域の方が始めている新たな支援活動にホームからも参加、協力している。ホームでも支援可能な取り組みを継続しながら、地域の方との信頼関係がより深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方が認知症の方と交流する機会を設けており、認知症ケアについても情報発信をしている。福祉ボランティアや地域の学生も積極的に受け入れており、認知症について理解を深めてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所の活動や取り組みを報告する機会だけでなく、地域における課題や問題も取り上げて、地域に根差したホームであるべく会議を通して得た情報や意見をサービス向上に活かしている。	会議には、多くの地域の方の参加が得られており、様々な意見を出してもらい、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、家族も多くの方の参加が得られており、ホームの状況の報告が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	自治体窓口へ定期的に訪問する機会を設けており、情報交換を行っている。今年度も市町村担当部署との共同企画を実施するなど協力関係の構築に努めている。	市や広域連合とは、老健等と併設している利点を活かしながら、事業所全体で情報交換等が行われている。ホームでも市役所の場所で行われている作品展に参加、協力する等の取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について正しく理解をするために定期的に学ぶ機会を設けている。安全上の配慮から事業所出入り口は施錠してあるがホームのなかでは本人の意思を尊重した見守りを重視して行動を制限しないよう努めている。	身体拘束を行わない方針のもと、職員間で連携しながら利用者の状況等に合わせた支援に取り組んでいる。また、併設の老健とも連携しながら、定期的な検討会議の開催や職員研修の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	スタッフ会議でも虐待について学ぶ機会を設けており、日頃のケアのなかでも小さなことが虐待につながらないようスタッフが互いに声を掛けあって虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用されている入居者もいることから日頃から制度について理解を深めるよう努めている。今後も勉強会のテーマとして取り上げるなど学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には一つひとつ丁寧な説明を心掛けており、内容に疑問や不安が残らないように、納得していただいてから契約を結ぶように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃より信頼関係を築き、話しやすい環境を整えるよう努めている。意見を伝え易いようにホーム玄関に設置された意見箱や市町村担当窓口を通す方法についても利用説明を行っている。	ホームで行われている行事の際には、家族にも案内を行い、交流につなげている。家族からの要望等には、内容にも合わせながら、ホーム管理者や老健事務長による対応が行われている。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃よりコミュニケーションをとることを大切にして意見や提案を伝え易い環境をつくり、職員から提案されたアイディアは運営に反映できるよう努めている。	毎月のユニット会議には管理者も参加し、職員からの意見等を把握し、運営法人で行われている各種会議等を通じて報告し、ホームの運営への反映につなげている。また、日常的な職員間での意見交換や管理者による職員面談の取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職責や経験に応じた給与水準が定められているほか、賞与や資格手当の支給、労働時間の調整など、職員一人ひとりがやりがい、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外での研修に参加し易い環境を整えている、資格取得支援制度と合わせて各自のスキルアップに繋げている。新入職員に対してはOJTカリキュラムを活用した人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	加盟している愛知県認知症GH連絡協議会でのネットワークを活かして研修会や行事に積極的に参加している。他事業所と個別にも親睦を深めており今年度は市内5つの事業所間で職員交換研修も実施され活発な活動を展開している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	生活環境が変わることを考慮して、家族、関係者からの情報収集に努め、本人からの希望や要望にも耳を傾け不安なくホームでの生活がスタートできるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の希望、要望には耳を傾けて、サービス利用に関して不安なく安心して利用を開始していただけるよう丁寧な対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族が置かれている状況を把握して、その時本当に必要なサービスが提供できるよう、他のサービスを利用することも含めた総合的な支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホームでの生活が穏やかなものであるように、本人の気持ちに寄り添ったケアを心掛けている。嬉しい、楽しい、悲しいなど生活のなかの様々な場面で本人の気持ちに共感できるような関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃より小さなことでも相談、報告をして一緒になって本人を支え合えるような関係つくりに努めている。本人と家族の絆を大切にしたサービスの提供に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ホームでは友人、知人などいつでも気軽に訪ねてきてもらえるような環境整備を心掛けている。入居後も馴染みの関係が継続できるような支援に努めている。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問し、利用者との交流が行われている。家族の協力を得ながら趣味を継続している方もいる。また、利用者が家族との交流を継続できるようにホームも外出支援を行う等の協力にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格やそれぞれの関係性を把握することで良好な人間関係が築けるような支援を心掛けている。ホームでの生活のなか互いが支え合えるよな支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後に転居先の本人を訪ねたり、家族が事業所の行事に参加されるなど、サービス利用後にもそれまでと変わらない関係を継続できるよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より傾聴する意識を持ち、普段の会話の中から一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。意思の伝達が困難な場合であっても本人の立場に立ち、気持ちを汲み取れるよう努めている。	職員間で利用者を担当しながら一人ひとりの把握につなげ、日常の支援につなげる取り組みが行われている。また、ホームでは毎週のカンファレンスを実施しており、利用者の思いや意向等に関する情報交換や支援内容の確認が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の生い立ち、過去の生活環境、サービス利用の経過など可能な限り情報の収集に努め、それら情報を職員間で共有してホームでの生活がより充実したものになるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	無理や負担がなく、一人ひとりに合った暮らしが送れるように日頃から小さな変化にも気付き、心身の状態把握ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を踏まえた上で、その方の望む暮らしができるような介護計画の作成に努めている。サービス担当者会議で出された多様な意見やアイディアを取り入れて、介護計画がより充実したものになるよう努めている。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、変化に合わせた見直しが行われている。また、日常的な記録や毎週のカンファレンス等を通じて、モニタリングを3か月で実施しており、利用者の変化の把握と計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケアの様子やケアの実践した結果など個別記録に記入して、定期的に行われているケアカンファレンスでも意見交換を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の希望や要望に耳を傾け、思いが実現できるよう柔軟な支援を心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	人との繋がりを大切にした地域交流を活発に行っており、それら地域資源を活用してホームでの生活がより豊かなものになるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	4個所の協力医療機関があり、それぞれの専門分野の違いを活かした、その方の健康状態に適した主治医により最適な医療が受けられるように支援している。	運営母体でもある医療機関による支援も行われているが、ホームでは複数の医療機関との連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた支援が行われている。また、ホーム及び老健の看護職員による医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	配置されている看護師以外にも併設老健の看護師とは協力体制が築けており、緊急時以外にも日頃より連携を取り合い適切な看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーや面談で情報のやり取りを行っている。入院中も情報交換や相談の機会を設けており退院に向けての調整を随時行うように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居前にも重度化や終末期に向けた方針の話し合いの機会を設けているほか、時期に応じてその都度意向を伺うようにしている。関係各者と情報の共有をしてチームでの支援に努めている。	身体状態の重い方も併設の老健とも連携しながら行われているが、ホームでも支援可能な取り組みが行われており、ホームでの看取り支援も行われている。家族との話し合いを重ねながら、医療面での連携も行いながら、意向に合わせた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時における対応マニュアルがあり全ての職員が対応できるようにしている。法人内で救急法について学ぶ機会も定期的に設けており実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策委員会が設置されており毎月1回設備や備品のチェックを職員が順番に行っているほか、利用者も参加する防災訓練を年2回行っている。地域の防災に状況についても運営推進会議などで取り上げ話し合う機会を設けている。	年2回の避難訓練については、併設の老健と合同で実施しており、様々な災害を想定しながら、夜間想定や通報訓練等も含め、事業所全体で取り組んでいる。また、地域の方の受け入れも想定しながら、備蓄品については、老健で管理されている。	水害に関する支援に関しては地域の方からも要請を受けている。併設の老健とも連携を継続しながら、ホームで支援可能な内容の検討に期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格、尊厳を尊重して言葉かけ一つにしてもその方に合うように心掛けている。	ホームの基本理念には、利用者を尊重した支援を行うことを記載されてあり、管理者からの働きかけを行いながら、日常的に職員が利用者への対応を意識してもらうように取り組んでいる。また、事例検討も行いながら、職員の接遇に関する研修が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が自分で決められるような声掛けの工夫や、表情、しぐさなどからも思いを汲み取れるように、自己決定ができる支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活パターンを把握して本人の希望に沿った生活が送れるよう支援をしている。職員がゆとりを持つことで本人に無理が生じないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝鏡を見て、洋服を選び、化粧をするなどその人らしいお洒落が楽しめるように支援をしている。意思の伝達が難しい場合でも本人の嗜好を考慮し職員が一緒になってお洒落が楽しめるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の嗜好を把握して美味しく楽しい食事がとれるような支援を心掛けている。食事を食べるだけでなく作る段階から一緒になって行い食事が楽しいものだと感じてもらえるよう支援をしている。。	おかず類は外部業者による提供であるが、ご飯と汁物はホームで調理しており、利用者もできることに参加する機会をつくっている。日常的におやつ作りや定期的に外食を行う機会をつくっている。また、職員も利用者と食事を行う機会をつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事摂取量を記録に残し、個々の状態に適した摂取量を確保できるよう努めている。必要に応じて形態や量の見直しも行いその時の状況に合わせた支援を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後に行っているほか、定期的に歯科衛生士の訪問指導を受けており一人ひとりが口腔内を健やかに保てるよう支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を元に個々の排泄パターンを把握してトイレでの自然な排泄に向け声掛けや介助など支援を行っている。自尊心を傷つけないよう配慮をした支援に努めている。	利用者全員の排泄記録や日常的な申し送りの他にも、毎週のカンファレンスを実施していることで、利用者の排泄状態及び支援内容に関する検討が行われている。また、排泄に関する医療面での支援も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	下剤など薬だけに頼らず運動、食事、水分補給など生活のなかでできる予防、改善にも取り組んでおり、個々に合わせた排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	個々の意思やタイミングを考慮した支援を心掛けている。毎日入浴される方から週に2～3回の方まで本人のペースを大切にして、のんびりと入浴が楽しめるような支援を心掛けている。	利用者は1日おきに入浴しているが、利用者の希望にも合わせながら毎日のように入浴している方もいる。身体状態に合わせた職員複数での介助や老健の入浴設備による対応も可能である。また、外出先で足湯を楽しむ機会もつくられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活のリズムに沿っていつでも休息できるようにしている。明るさ、音、温度など快適に休息ができるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報を職員間で共有してそれぞれの効果や副作用について把握に努めている。処方される薬剤に変更があった場合にも記録や申し送りで情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の趣味、好きなこと、やりたいことを毎日の生活に取り入れるようにして楽しく生活が送れるよう支援をしている。家事活動でも得意なことを自信を持って行えるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人や家族の希望に沿って好きな場所、馴染みの場所に外出できるよう支援をしている。家族にも協力を得ながら職員がサポートをすることで可能な限り希望に添えるよう柔軟な対応を心掛けている。	利用者が日常的に外出することができるように、職員間で連携した対応が行われている。年間を通じた外出行事の取り組みが行われており、季節に合わせた外出等が行われている。また、利用者の希望に合わせた外出支援や個別の対応にも取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人が財布を管理されている方もいる。外出や買い物の時には希望するもの購入するなどお金を使う機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個人で携帯電話を所有している方は、好きな時に家族や知人と連絡を取られている。ほかの方も事業所の電話を取り次ぐ機会を設けている。年賀状や暑中見舞いなど季節の便りを出す支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間は毎日の清掃により清潔を心掛け、季節感のある装飾をするほか座席や家具の配置などにも配慮をして一人ひとりが居心地よくすごせるよう工夫をしている。	リビングの他にも、老健につながる通路を活用しながら様々な植物を育てる等、利用者がリビング以外で過ごすことができる場所の確保が行われている。また、リビングや通路に季節に合わせた飾り付けを行う等の雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間のなかでも一人ひとりの居場所が確保できるようソファを配置するなど好きな場所ですごしていただけるようにしている。座席の配置を定期的に見直すなど気の合う方同士で思い思いにすごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が長年使用してきたタンスや時計、鏡など慣れ親しんだ家具類を使用されている方もいる。居室には本人が好きなものを飾り安心して居心地よくすごせるような支援に努めている。	居室には、利用者や家族の意向にも合わせた様々な家具類や好みの物等の持ち込みが行われてあり、一人ひとりに合わせた生活環境となっている。また、居室に収納スペースが確保されてあることで、車椅子の方も居室を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレをはじめ各所に案内図を掲示することで迷いなく生活が送れるようにしてある。安心して移動ができるように導線の確保をして安全に努めている。		